



わっきーの 鳥雑記

⑦

脇坂英弥

■ 人気急上昇の野鳥ブローチ

姫路市伊勢自然の里・環境学習センターの本棚に野鳥図鑑がいくつか並べてあります。おなじみのフィールドガイドのほか数種類の写真図鑑もあります。しかしこれらの図鑑はほとんど来館者に読まれることはなく、いまだに新品同様のものが存在しています。冬季に数回、自然観察会としてバードウォッチングをおこなっていますが、正直いって野鳥の人気はいまひとつ。とくに子供たちには野鳥より昆虫やカエルが大人気で、これらの図鑑は野鳥図鑑に比べてかなり傷んでいることから興味の違いが明確です。

そんな悩みを施設ボランティアのYさんにこぼしたところ、「鳥はホンマに人気ないなあ。こうなれば無理やりでも図鑑を開かせる仕掛けを用意せなあかん。図鑑をめくってきれいな野鳥をながめたら、きっと野鳥ファンになるはずや」となにやら名案が浮かんだ素振りで見返してくれました。

さて、Yさんの名案は野鳥ブローチ作りでした。もちろん、ねらいは色を塗るときに野鳥図鑑を開いてもらうことです。野鳥ブローチの素材は白色の樹脂粘土。ブローチを誰でも簡単に作られるようにと木の板を彫って鋳型を製作してくださいました。毎週のように野鳥観察に訪れる鳥好きのYさんは、なんでも器用に作ってくださる職人です。現在、ブローチの鋳型はノスリ、フクロウ、カワセミ、マガモ、サンコウチョウ、カワラヒワ、メジロ、ヤマガラ、ミソサザイなどセンターに生息する野鳥を中心に20種類近くにのぼります。さらに美しく着色された見本を用意して下さったYさんは、来館者が手にとって閲覧できるように展示してくれました。

企画はみごとにヒット。来館者の反応はよ

く、季節を問わず子供から大人まで作ってみたいという方が後を絶ちません。いつかは見たい憧れの鳥を塗る人、図鑑を凝視してできるだけリアルに塗る人、見本を模ってそのままに塗る人、独創的な感覚を生かして虹色の鳥を塗る人と楽しみ方はさまざまです。はじめは図鑑を開いてもらうことが目的だったブローチ作りも、今では色を塗りながら鳥話に花を咲かせるというコミュニケーションのツールになっています。完成後はシャツや帽子、カバンにつけて愛用してくださる方もいらっしゃいます。

野鳥ブローチの登場以来、ほとんど手にされることのなかった本棚の野鳥図鑑に汚れが目立つようになってきました。もうちょっと図鑑は丁寧に扱ってほしいな、と思いつつもなんだか嬉しい気がして複雑です。あまり大げさなことはできませんが、このような小さな取り組みから野鳥ファンが増えてくれることを願います。

ちなみに、ただいまトンボのブローチを検討中。来館者から強いリクエストがありました。またYさんのお世話になりそうです。



人気No.1のカワセミ。背中のコバルトブルーを表現するのが難しいとYさん